



# 〈公開〉作品にみる生と死Ⅱ

死生学研究所

- |     |  |      |  |        |       |
|-----|--|------|--|--------|-------|
| □会場 | 東洋英和女学院大学大学院<br>(六本木) 201教室<br>東京都港区六本木5-14-40 | □最寄駅 | 六本木駅(日比谷線徒歩10分)<br>麻布十番駅(大江戸線徒歩5分)<br>(南北線 徒歩7分) | □参加費   | 500円  |
|     |  |      |  | □事前申込み | 不要    |
|     |  |      |  | □先着    | 100名様 |

## 第2回 連続講座

# 大井 玄

(おおい げん)

東京大学名誉教授

5月22日(土)  
16:20-17:50  
(受付15:50から)

## 終末期医療医から見た存在と時間

### ■プロフィール

1935年生まれ。東京大学医学部卒業(1963年)、ハーバード大学公衆衛生大学院修了(1977年)。東京大学医学部教授などを経て、国立環境研究所所長を務めた。専門は社会医学、一般内科、在宅医療、心療内科、環境医学。現在も臨床医として終末期医療全般に関わる。

### ■主要業績

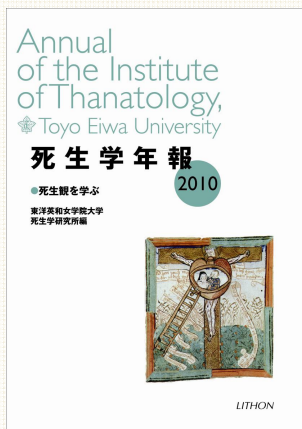
『終末期医療』弘文堂1989年。『痴呆の哲学』弘文堂2004年。『痴呆老人は何を見ているか』新潮社2008年。『環境世界と自己の系譜』みすず書房2009年。

内容紹介： 私たちは「ニュートンの絶対時間」が時間だと物理学で学びます。「時間」は三次元空間で等速に流れているというものです。しかしその根底にはキリスト教的イデオロギーがあります。時間も神の創造により生じ、世界創造から最後の審判まで一様に伸びていると考えます。しかし生物の時間は等速ではありません。ゾウの時間はネズミの時間よりゆっくり流れ、ヒトでも自分のいる状況、年齢で速度が違うという体験をします。哲学的な時間解釈もその世界観に影響されます。終末期医療の場では、以上のような時間感覚の諸相を窺うことができ、人生の坂をくだる愉しみさえ生ずると申せましょう。



<新刊> 2,500円+税 一般書店でご注文・ご購入いただけます

## 東洋英和女学院大学 死生学研究所編 (リトン刊)



死生学年報2010  
死生観を学ぶ

- |  |  |
|--|--|
| 死生観と生死への勇氣<br>宇都宮輝夫                          | 生命をもたらす木<br>—中世キリスト教図像を中心に—<br>細田あや子       |
| スピリチュアルペイン、この曖昧なるもの<br>松岡秀明                  | 子どもの言語習得と精神発達に<br>与える大人の影響<br>ミリアム・T. ブラック |
| 死者を代弁して語ること<br>葛西賢太                          | エッセイ<br>緩和医療医として患者から学ぶ死生観<br>奥野滋子          |
| 『ギルガメシュ叙事詩』は「知恵文学」か<br>—「死生の秘密」への旅路—<br>渡辺和子 | 講演録<br>人の生き様、死に様に学ぶ死生観<br>藤腹明子             |

第1回研究会 6月12日(土) 14:40-16:10 参加費500円  
久保田まり 本学人間科学部教授  
愛着外傷の向こう側—抱えつつ、越えていくこと

第3回連続講座 6月12日(土) 16:20-17:50 参加費500円  
福田 周 本学人間科学部教授  
金子みすずの作品と生涯にみる生と死—分析心理学の視点から



お問合せ先

東洋英和女学院大学死生学研究所  
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp  
03-3583-4035 (fax専用)